

令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 7月1日 / 年度末 2月27日
氏名	吉田大輔
学科	国文学科
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
文章表現	国文	1
日本文学史	国文	1
基礎力プログラムⅠ (初年次教育)	国文	1
子どもと文学	国文	2
ジェンダーと文学	国文	2
ゼミⅠ	国文	2
基礎ゼミ	国文	1
基礎力プログラムⅡ	国文	1
近現代文学講読Ⅱ	国文	2
文学と地域	国文	2
ゼミⅡ	国文	2

②担任制度

担任 (1年生)	1名	担任 (2年生)	5名
----------	----	----------	----

③委員会活動

運営協議会		SD委員会	委員
研究倫理委員会		地域連携委員会	委員長
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	委員
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	委員
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	委員	教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会	委員	授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

## ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

## 2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 学生の学習と大学生活の両面を中心に、学生支援に注力する。
個人の教育理念・目標	【授業に関して】「類似」（似ている）を発見する力を鍛えたい。 人間の思考は、4つの要素に分割して捉えられる。4つとは、「抽象」（まとめると）「具体」（たとえば）「類似」（似ている）「差異」（違う）である。これらの要素を事象に即して展開できる力が思考力なのだと考える。このうち、高校までの学校教育において、ものごとを抽象化する力と緊密な関係があるにも関わらず、もっとも育てられる機会が少ない能力は、「類似」を発見する力である。このような認識に基づき、さまざまなレベルでの「類似」を発見させる力を養い、生物学で言う「相同」（見た目は違うが本質は同じ）と「相似」（見た目は似ているが本質は違う）をさまざまな事象に対して発見できる力を涵養したい。 【授業以外に関して】アイデアを複数出せるように支援したい 授業以外では、自身のおかれた環境と自身の願望・志向とを折衷させながら、状況に対して複数のアイデアを自分自身で思いつき、検討し、最良のアイデアを実行できる学生を育てることを目標にする。こうした目標を持って、学生の相談に乗るなどの支援を行いたい。

## 3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	<p>今年度の筆者の担当授業のうち、「基礎力プログラムⅠ」（国文1年・春学期）「基礎力プログラムⅡ」（国文1年・秋学期）「基礎ゼミ」（国文1年・秋学期）などの他の教員と連携して行った授業では、例年通り、高校までの学びを大学への学びへ発展させ、国文学科学生に必要な力を総合的に育成していくよう努めた。「基礎力プログラムⅠ」では大学での主体的な学びに必要な基礎知識を教授したうえでグループ発表を行ってもらい、知識を確実なものにし、他者と協働する力を育成しようとした。「基礎力プログラムⅡ」では、地域で働く大人にインタビューを行ってもらい、それらを記事にまとめていくことによって、コミュニケーション能力と文章作成能力、職業意識の向上などに総合的につなげていくよう心掛けた。「基礎ゼミ」では、個人発表の力を育成することを目指し、文学作品をナラトロジーの観点から分析する課題へ取り組ませ、2年次のゼミへと繋がるようにした。</p> <p>筆者が単独で担当した授業、「文章表現」（国文1年・春学期）「日本文学史」（国文1年・春学期）「ゼミⅠ」（国文2年・春学期）「子どもと文学」（国文2年・春学期）「ジェンダーと文学」（国文2年・春学期）「近現代文学購読Ⅱ」（国文1年・秋学期）「ゼミⅡ」（国文2年・秋学期）「文学と地域」（国文2年・秋学期）では、上述の類似を発見する力を伸ばす展開を心掛けた。</p> <p>「文章表現」では、類似の発見がものごとを抽象化する力と密接な関係にあるという認識のもと、抽象化する力と具体化する力を育成する課題を多く考え、実践した。「日本文学史」では、日本近代文学の成立をめぐる「近代」と「日本」をめぐる多くの言説に共通のものがあることに気づかせるように留意した。「ゼミⅠ」では、一人の学生に何らかの類似が見られる2つの作品を担当してもらうことで、共通の問題点を発見してもらうようにした。「子どもと文学」では、「イソップ寓話」から類似の問題を抽出し、絵本を作成してもらった。「ジェンダーと文学」では、1900年前後の複数の小説に同時代の性的言説が見られ</p>
----	--

	<p>るという類似を学生が発見できるよう展開した。「近現代文学購読Ⅱ」では、別の漱石作品に見られる類似主題へ言及しながら「三四郎」を購読するようにした。「ゼミⅡ」では、なにかとの比較の観点を重視しながら文学作品の個性を発見してもらうよう指導した。「文学と地域」では、織田作之助の作品を集中的に読むことで、彼が描いた関西像の共通性を考えた。</p> <p>上記すべての授業で独自教材として多くのプリントを作成・使用し、リアクションペーパーを用い、学生の理解や関心、質問などを把握しつつ、授業を展開した。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>特にゼミ生や担任学生とは日常的に学習・大学生活・就職などの相談に乗り、文章添削などを多く行った。その他、授業内外で、ゼミ生や担任学生以外の学生からの相談にも多く乗った。キャリア支援関連のイベントなどにも注力した。</p>

#### 4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	<p>他の教員と連携して行った授業「基礎力プログラムⅠ」「基礎力プログラムⅡ」「基礎ゼミ」では、いずれも受講生の多くは真摯に取り組んでくれ、所期の目標の達成は果たせたと考えている。一方で、本年度の国文学科1年生は7名と少人数で、「基礎力プログラムⅠ」のようにグループワークを行う授業ではグループの数が少なくなってしまい、グループ間での切磋琢磨の空気にやや欠け、こうした点に授業運営の難しさを感じた。</p> <p>筆者が単独で担当した授業、「文章表現」「日本文学史」「ゼミⅠ」「子どもと文学」「ジェンダーと文学」「近現代文学購読Ⅱ」「ゼミⅡ」「文学と地域」では、上述の類似を発見する力を育成した。特に、「子どもと文学」「ゼミⅡ」では、熱心に取り組み、こちらの所期以上のレポートや成果物を完成させた受講生がほとんどだった。「子どもと文学」のイソップ寓話から絵本を作る課題や、「ゼミⅡ」での学生の主体的な調査によるレポート作成課題では、例年通りなるべく懇切に助言を行い、学生たちからも自身の成長を実感したという声が多く聞かれた。一昨年度、昨年度に引き続き「子どもと文学」で作成した絵本は、学生たちの許可を得て図書館で展示を行い、外部化するようにも努めた。</p> <p>授業のリアクションペーパーやアンケートの反応も悪くなく、いずれの授業でも学生はおおむね積極的に取り組んでくれた。一方で、上述のように今年度の1年生は2年生に比べて人数が少なく、切磋琢磨の空気がやや薄くも感じられた。その空気を変えようという働きかけ改善も見られたが、雰囲気が大きく変わったというまでには至らなかった。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>ゼミ生や担任学生を中心として、学生が相談しやすい雰囲気は十分に構築できたと考えている。就職に際しての文章添削などの相談を受けたことも多く、具体的な文章への助言などを含めて、学習・就職活動いずれの面でも支援できたとと思う。</p>

#### 5. 目標（今後どうするか）

授業	<p>個人の教育理念・目標としている「類似を発見する力の育成」を念頭に実践を継続していきたい。この力を身に着けるための授業方法や教材をさらに考えたい。今年度で筆者は本学を退職するが、来年度以降の勤務先でもこの発想を取り入れて教育を行っていきたい。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>上述のように筆者は今年度で本学を退職するが、勤務先が変わっても、学生の多くが相談しやすい雰囲気を構築し、困難への対処を支援していきたい。そうした態度を基本としつつ、レポート以外の文章も含め、ライティング指導に力をいれていきたい。</p>

#### 6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 組織図